

新みどり病院 外壁デザイン決定!

外壁に最もふさわしいデザインのシール投票を 10/26 ~ 11/6 まで、みどり病院、すこやか診療所はじめ 12カ所で開催し、下記デザインが選ばれました。

投票にご協力頂いた皆様ありがとうございました。



明けましておめでとうございませう。昨年11月3日新みどり病院の神事抜きの着工式を行いました。2024年春に新しいみどり病院を創り上げます。本年もご支援ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。

この原稿の締め切りは毎年11月14日です。2020年(二年前)、2021年(一年前)と今回2022年11月14日での新型コロナウイルス感染症、国内感染者/死者、県内感染者/死者、みどり病院で診断した感染者/死者(いずれも累計)を表にまとめました。また、2021



謹賀新年

医療法人 岐阜勤労者医療協会
 理事長 岩井 雄司

年5月から病院と診療所の総力をあげて新型コロナウイルス、3万2千回の接種を行いました。感染症との闘いはまだまだ続きますが、「健康とくらし」を守る闘い(健康保険・介護保険・消費税を改悪させない)もいよいよ正念場です。

COVID-19	日本国内(累計)		岐阜県内(累計)		みどり病院(累計)	
	感染者	死者	感染者	死者	感染者	死者
2020/11/14	116,986	1,877	800	12	5	0
2021/11/14	1,724,963	18,320	18,891	218	84	0
2022/11/14	23,239,103	47,648	330,538	651	2,054	*4(7)

*みどり病院 COVID19 関連死亡例は7例に及びますが、岐阜県の651例にカウントされているのは4例のみです。

みどり病院リニューアルを共同の力で

岐阜健康友の会 会長 大塚 研二



新年おめでとうございませう。みどり病院のリニューアルが近づいてきました。新みどり病院「地域にひらかれたみんなにやさしい病院」が、11月3日の起工式を経て、いよいよ、2024年、来春春に竣工開院です。みどり病院のリニューアルが計画されて以来、各地域での説明会や病院での展示、「健康とくらし」でのアピールなど、様々な取り組みを行ない、新病院に寄せる期待の大きさと力強い支援の声に励まされ、必ずリニューアルを成功させる決意を固めています。

「リニューアルを支える力」みどり病院のリニューアルを支えるのは、病院職員の熱意ある取り組みと私たち地域の皆さんの大きな支援の力です。誰にも無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす私たちの病院は、安心して住み続けられる地域になるべきです。新しい病院は、今まで以上に病院をめざしています。

「新病院をアピールし、仲間を増やそう」みどり病院のリニューアルは仲間を増やすチャンスです。利用者へ寄り添う丁寧な診療に加え、健康相談、保健予防、生活相談にも取り組むみどり病院の職員の姿を語り、それを支える友の会の会員を増やし、新しい会員にも勤医協基金を呼びかけましょう。

「楽しく集まる友の会の活動を」コロナ禍の中でも友の会の活動の広がりが生まれて

地域に根差した保険薬局活動をすすめます

一般社団法人 ファルマネットぎふ 代表理事 吉田 昌樹



本年もよろしくお願ひいたします。昨年、発熱外来対応の患者さんが増え、薬局内でお待ちいただく患者さんの待ち時間が長くなるなど、大変ご迷惑をおかけしました。新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大のなかで、感染防止につとめ、来局された患者さんにもご協力をいただき、業務の縮小や閉局等でご迷惑をおかけすることはありませんでした。今年後も引き続き、感染防止に

支えるのは、病院職員の熱意ある取り組みと私たち地域の皆さんの大きな支援の力です。誰にも無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす私たちの病院は、安心して住み続けられる地域になるべきです。新しい病院は、今まで以上に病院をめざしています。

「新病院をアピールし、仲間を増やそう」みどり病院のリニューアルは仲間を増やすチャンスです。利用者へ寄り添う丁寧な診療に加え、健康相談、保健予防、生活相談にも取り組むみどり病院の職員の姿を語り、それを支える友の会の会員を増やし、新しい会員にも勤医協基金を呼びかけましょう。

「楽しく集まる友の会の活動を」コロナ禍の中でも友の会の活動の広がりが生まれて

健康 春秋

金華山を昇る南側の道路の入り口付近に岩戸森林公園があります。休日には、散策する人、ランニングする人などで賑わいのある公園です。そこからは岐阜城を見上げることできます▼その広い公園の一角、東側のあまり陽のささない位置に、ひっそりと一つの石碑があります。大きな石組の土台の上に高さ2m以上、厚みのある石板が立っています。「礎」と大きく上部に刻まれ、岐阜農民運動功労者の碑と彫られています。2008年建立▼戦前・戦中の小作争議を戦った農民を中心に百五十余名の名を刻んだ銘とともに、毎年十一月頃に碑前祭が開催されてきました。主催するのは「農民運動先覚者顕彰会」。名前は長いのですが、ここでも高齢化がすすみ、碑前祭に集める方も八十歳以上の方が多く、一桁になっています。命と権利を求めて戦った戦前の農民の、その多くの運動の歴史はほとんど知られず忘れられていく岐路に立っています▼このようにお米を巡って命がけで闘ってきた農民の歴史を踏まえる時、現在の米作りを大切にしない政治には怒りさえ感じます。国を守ることには軍事ではなく、食料を十分に、輸入しなくても食へることのできる農業であるべきです▼ロシアのウクライナ侵攻によって明らかになったのは、食料を輸入にたよることのない政治です。(K)